

公立高校の「定員」は「ゆとり」があって当たり前!

おかしい条例は見直しを

大阪では、この5年間に「定員割れ」を理由に6つの府立高校が募集停止・廃校にされました。背景には、「3年連続定員に満たなければ再編整備」という府立学校条例があります。

しかし、子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校の「定員」に「ゆとり」があるのは当たり前で、それを理由に学校をつぶすなどの異常な対応は他都道府県にはありません。

対象校は、それぞれ地域の子どもたちを受け入れ大切な役割を果たしてきた学校ばかり。広範な府民から「大切な学校をなくさないで」と声上がり、地域ぐるみの反対署名はのべ11万名を超えました。子どもたちに過酷な受験競争を強い、「不合格者」を出さなければ廃校にすると学校を競わせる理不尽な条例は、抜本的に見直すべきです。



「長野北高校、柏原東高校がなくなれば、近くに入学でき通える学校がなくなる」
(千早赤坂村の住民)

「中学時代不登校でこの学校しか行けなかったと言われた。でも、そこで丁寧に指導してもらい大学にも行けた。この学校があったから今の自分がある。大切な学校をなくさないでほしい」
(咲洲高校の卒業生)

「定員を超えそうになったら募集クラス数を増やして定員割れに追い込む。廃校ありきの施策は許せない」
(西淀川高校の保護者)

「生徒集めに追われて落ち着いて授業の準備ができない。目に見える『成果』ばかり求められ教育がゆがむ」
(対象校でない高校の教員)



定時制もつぶす!?

教育委員会が出した「再編整備計画」は、夜間定時制について「学校配置のあり方を含めた対応方を検討する」としています。15年前に統廃合で半分に減らされ(29校→15校)「遠くて通えない」生徒も出ているのに、これ以上の統廃合は絶対に許せません。

